

第5回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(平成30年12月20日開催)

主な意見、指摘事項と対応について

1. 定期環境モニタリング調査（平成30年度夏季・秋季）の結果について

意見・指摘事項	対応
0.7Kpラインで浚渫直後の春季と比べて秋季の土砂堆積が著しい。どの程度の堆積厚さとなるのか測量結果を基に確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年5月と10月を比較して、最大で1m近い堆積が確認されました（別紙参照） 今後も経過観察してまいります。
緩衝帯測量結果について、側線No.11の地盤高が全体的に下がっているため再度測量データを確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> 測量データを再確認し、正常値であることを確認しました。 現地調査を行い、鋼矢板付近において、地盤高が下がっている傾向が見受けられました。（別紙参照） 今後も経過観察してまいります。
緩衝帯部分の地形変化については、今後も継続して経過を調べていくこと。	<ul style="list-style-type: none"> 今後も経過観察してまいります。
底生生物調査の個体数データの表記の方法について、m ² あたりに換算して示すこと。	<ul style="list-style-type: none"> 表記を修正いたしました。
「ウミゴマツボ」、「エドガワウミゴマツボ」の表記については「エドガワミズゴマツボ」に統一すること。	<ul style="list-style-type: none"> 表記を修正いたしました。
底質調査結果の干潟調査データについて、側線No.11のシルト分が増加している。一時的な現象の可能性はあるが、今後も注視して観察していくこと。	<ul style="list-style-type: none"> 今後も経過観察してまいります。
底質調査結果の干潟調査データについて、側線No.5でのH29年10月とH30年10月を比較して、全体的に粒度が粗くなっていることから、土砂が流されている可能性もあるので、今後も注視して観察していくこと。	<ul style="list-style-type: none"> 今後も経過観察してまいります。

2. その他

意見・指摘事項	対応
吉野川の事例では、頂版コンクリート上部を埋戻す際、周辺の底質環境と異なる材料を使用しても、河床高より0.5m程度低く埋戻すことで、埋戻範囲の表層は周辺からの土砂供給により同様の底質環境となるよう配慮している。したがって、本工事についても、周辺の土砂供給を活用した埋戻しを実施すること。	<ul style="list-style-type: none"> 表層は周辺の土砂供給により同様の底質環境となるよういたします（別紙参照）。